

## 本社にLPガス発電機

エンジン 災害時事業継続取り組み



敷地内に設けたLPガスの貯槽や非常用発電機＝浜松市中区高林のエンネジン本社で

LPガス販売のエンネジン（浜松市中区）は、地震などの災害を想定した事業継続計画（BCP）に関する取り組みとして、中区高

林の本社敷地内にLPガスを燃料とする非常用発電機などを設けた。災害時に事業を続けるための電源として活用するほか、近隣住民

への炊き出しなどにも役立つと考えた。

昨秋に本社敷地内に別館の社屋を新設したのに合わせ、非常用発電機やLPガスのタンクを設けた。タンクには五十キのボンベ約二十本分のLPガスが貯蔵でき、発電機で社屋に電気を供給できる。タンクの接続口にコンロをつなげば、住民たちへの炊き出しに役立つ。

藤田源右衛門社長は「ボンベで運搬できるLPガスは災害に強いエネルギー。地域のインフラを支える企業として、災害への万全の備えをしたい」と話す。

ほかにも九千六百リットルを蓄える飲料水タンクや太陽光発電などでつくった電力を蓄えるリチウムイオン蓄電池システム、災害用トイレを敷地内に設けた。

エンネジンはこれらの設備のリース販売も行っている。住民や法人などを対象に、設備の見学会も希望に応じて随時開く。問い合わせは、エンネジン☎電053（471）1194☎へ。

（西山輝一）